



1年次から社会とかかわり、多分野で活躍するかおりの専門家を目指す

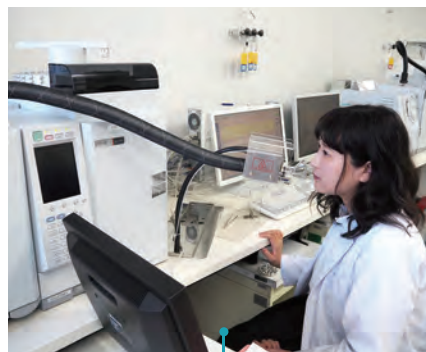
大同大学 情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻*

* 2018年4月から工学部建築学科に編入



現役の調香師による実学的な授業で香水作りを学ぶ

世界的に活躍する大手化学メーカー・化粧品メーカーの調香師の指導を受け、自分のイメージする香水を作りました。香料を混ぜ、理想のかおりをつくるのが予想以上に難しかったです。(畠中さん)



企業でも用いられる においの測定法を学び、 国家資格を取得

測定には、分析機器による測定法と人の嗅覚による測定法があります。国家資格である臭気判定士が測定の際に使用する機器も整備されていて、就職後にも役立つ技術を学べます。(近藤さん)

インターンシップで得た 学びを後輩に伝える

インターンシップ報告会では、自分の体験をまとめて発表します。学年を超えて交流する機会が多く、私も先輩の卒業研究発表会に参加して、自分の研究テーマを決める参考にしました。(小崎さん)



進路を意識した授業で 視野を広げさせる

「実学主義」の教育理念の下、産業界から必要とされる人材を送り出してきた大同大学。2010年度に全国初のかおりを専門的に教育・研究する「かおりデザイン専攻」を新設し、この分野のスペシャリストの育成を目指して、実践的なカリキュラムを展開している。

1年次では、におい・かおりの基礎を学ぶ。生活の中でのにおいやかおりと例えば、香水やシャンプーなどをイメージする学生が多いが、そうした固定概念を転換させるため、フィールドワークを実施。学生は、自分の住む地域のおいを調査して



工学研究科 都市環境
デザイン学専攻1年

近藤早紀

こんどう・さき

愛知県立横須賀高校卒業。大学院で研究を深めながら、将来を検討中。



総合情報学科
かおりデザイン専攻4年

畠中 梢

はたけなか・こずえ

三重県立四日市南高校卒業。メーカーに技術開発者として就職予定。



総合情報学科
かおりデザイン専攻3年

小崎有紗

こざき・ありさ

愛知県立新川高校卒業。化粧品メーカーへの就職を希望。

地図にまとめ、発表する過程を通して、自然や工場、ゴミなどにおいても学びの対象であると理解する。

また、本専攻の学びは、化粧品や生活用品以外にも、住宅や自動車、家電など多分野にわたって生かせるということに気づかせるため、先輩たちのインターンシップ報告会や卒業研究発表会にも参加させている。

さらに、協働性や主体性などの社会人基礎力の育成にも力を入れていく。1学年約30人と少人数のため、ほぼすべての授業で発表の機会が設けられており、4年生の畠中梢さんは、「1年次には、発表資料の文字が小さいなど、内容以前の問題を指摘されていました。多くのプレゼンテーションを経験し、今では、質疑応答を想定して、事前にしっかりと準備できるようにになりました」と語る。

第一線で活躍する社会人から 生きた知識や技術を学ぶ

2年次からは、実際において・かおりの測定・分析などをする実験や実習がスタートする。

特徴的なのは、化粧品メーカーなどのにおい・かおり分野の第一線で働く社会人講師による授業だ。例え

ば、2年次の科目「かおり成分と調香3・4」は、すべての授業を社会人講師が行っている。大学院1年生の近藤早紀さんが特に印象的だった授業は、「嗅覚測定法」の授業だと言う。

「にのにおいの測定法の考案者から、その過程で試行錯誤されたお話を聞きました。この世界は未知の領域が多いため、重さや長さのように簡単に数値化できません。そのような中で測定法を開発していくことの難しさを知り、驚きの連続でした。化粧品に興味があり入学したのですが、視野が広がりました」

また、3年生の小崎有紗さんは、次のように語る。

「化粧品業界で働く講師から仕事の話聞いて、化粧品の研究職を目指すしたいという目標が明確になりました。化粧品メーカーで2週間のインターンシップを経験し、今の学びを社会でどう生かせるのかも分かり、より学びに力が入っています」

企業との共同研究を リードできるまでの人材に

におい・かおり分野の研究に取り組む大学が少なくもあり、本専

攻には多くの企業から共同研究の案件が舞い込む。多くの学生は卒業研究で企業との共同研究に取り組む。近藤さんもその1人だ。

「芳香剤メーカーと共同で、芳香剤のかおりの持続時間や効率的な使い方を研究しました。ただ、企業にはにおい測定の専門家がいなかったため、測定には予備実験が必要で、かなりの時間を必要とするということとを理解してもらおうのに苦労しました。また、企業には、スケジュールや予算があり、そのような制限の中でいかに成果を出すかを学ぶことができました」

1年次から、社会との接点を多く設け、学生は目標を明確化させながら学びを深めていき、自ら進路を切り拓いていく。

「私は、自分の考えを提案する授業にやりがいを感じ、新商品開発に携われる技術開発者を目指し、消臭剤の芯と同じ素材のペン先を扱っているメーカーから内定をもらいました。卒業研究では、企業と共同で不快臭を模したにおいをどのようにつくるかを研究中です。社会人の方から多くのことを吸収し、就職後に生かしていきたいです」(畠中さん)

大学の思い

におい・かおり分野の 先駆者となる人材を育成



情報学部総合情報学科
かおりデザイン専攻
教授
光田 恵
みつた・めぐみ

におい・かおりの専門家は、様々な業界で求められています。例えば、自動車メーカーや家電メーカー、食品・生活用品メーカーなどです。そのため、1年次から、多方面で活躍する卒業生や社会人の姿を見せ、視野を広げて進路を考えられるようにしています。

また、におい・かおりの分析などには理数科目の基礎知識が必要となるため、1年次には、研究に必要な数学と化学の基礎を学びます。

さらに、少人数や個人での発表を盛り込み、主体的に取り組める授業を多く用意しています。学内で得た知識や技能を試す場として、インターンシップや企業との共同研究の場を設け、卒業までに即戦力として活躍できる人材の育成を目指しています。

におい・かおりの分野は、私たちの暮らしに密接にかかわっているながら、研究の歴史は浅く、まだ解明されていないことがたくさんあります。既存の理論を使って学ぶだけではなく、新しいことに挑戦しながら学びたいというチャレンジ精神旺盛な学生を待っています。